



ウズベキスタン

企業訪問調査レポート[2]: Opa Singillar

～ NGO (障がい女性等支援団体) ～

■ ウズベキスタン共和国※ — 基礎データ —

- 面積: 448,900平方キロメートル [日本の約1.2倍]
- 人口: 3,049万人 (2014年初 国家統計委員会)
- 首都: タシケント / 人口約234万人 (2013年初時点)
- 名目GDP総額: 567億9,600万ドル (2013年)
- 1人あたりのGDP(名目): 1,878ドル (2013年)
- 実質GDP成長率: 8.0% (2013年)
- 為替レート: 1ドル ≒ 2,094.99 ウズベキスタン スム (2013年平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報(J-FILE)「ウズベキスタン概況(2015年1月更新)」

※[1991年8月31日]共和国独立宣言、「ウズベキスタン共和国」に国名変更



■ 調査日: 2014年 10月14日

■ 分野: NGO(障がい女性等支援団体)

■ 特徴: 活発で影響力のある福祉増進支援団体として、ウズベキスタン国内でよく知られている。種々の社会活動と連携・調整し、障がいのある女性や子供、障がい児を持つ母親等を中心に支援し、障がい者の持つ潜在的な能力を引き出し、育成することで、社会的地位と活力を向上させると共に、社会環境を改善する。対象はBOP層。

団体概要

- 名称: Opa Singillar (“Mothers Sisters”という意。以下“Opa”)
- 本部住所: 21A Zebinisso str, Kibray district, Uzbekistan (州都タシケント市から北東25km)
- 設立年: 2001年
- 創設者: Natalya Plotnikova氏(60歳)が自身も障がい者でありながら、障がい者を支援するNGOを設立した。学位を持ち、自ら乗用車(KIA製セラト)を運転している。
- 職員数: 4人(代表および経理担当含むスタッフ3人)
- メンバー: 活動支援者を含む約600人 (障がい者: 350人、障がい者家族・支援者など: 250人)
- 事務所面積: 約300 m²(作業場40 m²。州政府より無料で借りている。)
- 活動内容: コンサルティング、調査、障がいを持つ女性等への職業訓練・斡旋
- 商業活動: 建築用手袋等製造・販売、レンタル業(催し物等へのテーブル・椅子等貸し出し)
- 主な製品: 建築作業用手袋、縫ぐるみ人形・土産物等小物縫製品
- 関係団体: CHAQQON GO`ZALLAR(“Quick Beauties”という意。収益を出すビジネスの受け皿としてOpaが設立し、運営している団体。)
- 活動理念: 「障がい者に制約のない通常の生活を与える」

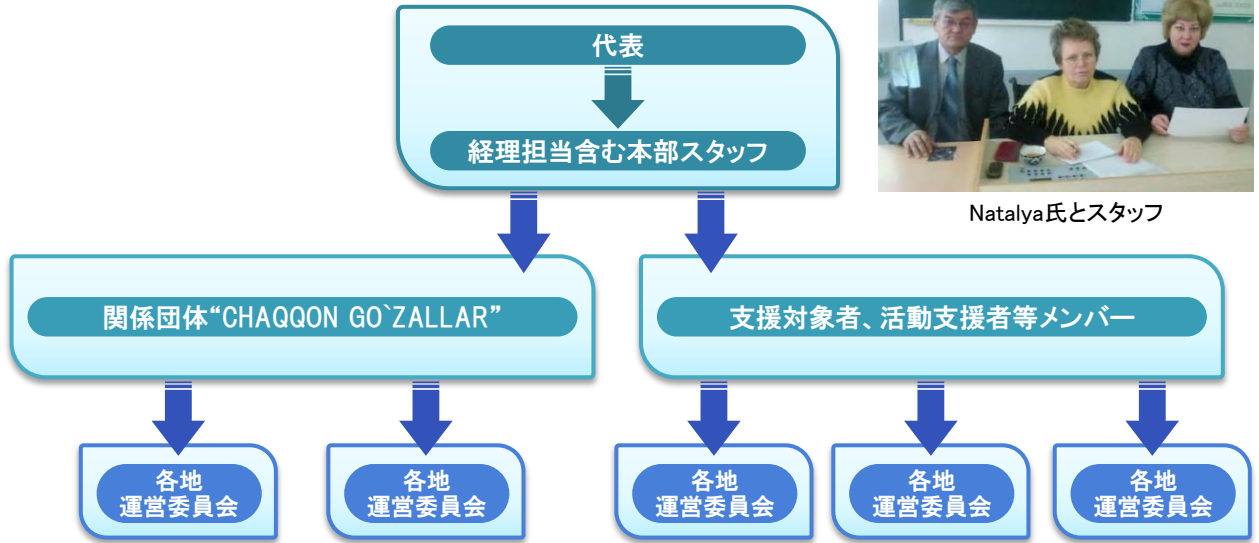


Opaの看板



創設者のNatalya Plotnikova氏

組織図



Natalya氏とスタッフ

Opaには代表であるNatalya氏と、経理担当を含む3人のスタッフがいる。本部を置くキブライ市の近隣地域5カ所に運営役員会があり、その他ウズベキスタン全土にOpaの支援を必要とする者（障がい者やその家族）および活動を支援する者（障がい者の家族、職業訓練指導員、医師、カウンセラー、サポーター等）併せて600人のメンバーがいる。



活動協力者達
(職業訓練指導、精神分析医、カウンセラー)

Opaへの国内協力団体

- キブライ市長室
- Local mayor office
- Women committee
- “Mahalla” Fund
- “Kamolot” Fund
- Republican Center of Social Adaptation of the Children
- Center for improvement of Market skills
- Association of the disabled entrepreneurs
- “Nur” Foundation
- “Statust”Center



各種証書



タシケント州議会発行の助成団体証書

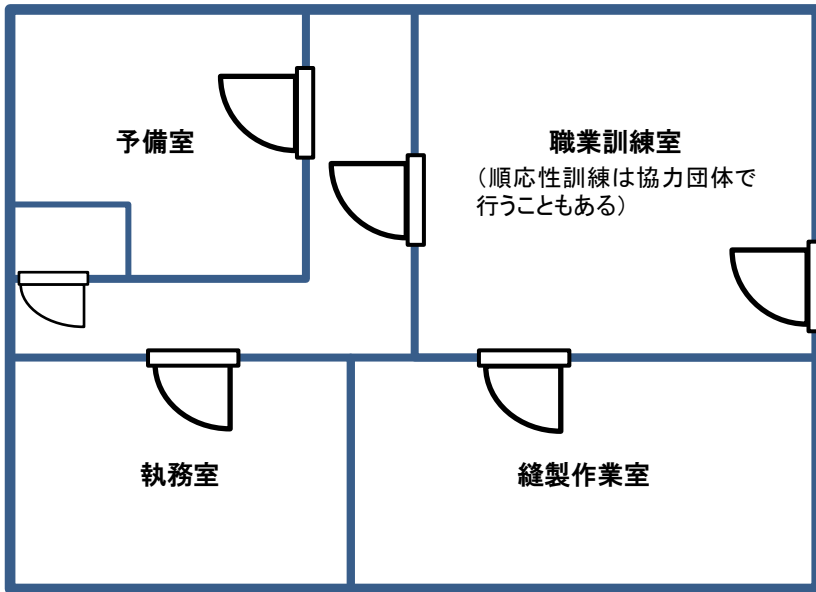


ウズベキスタンNGO支援基金の助成証書



UNICEFとウズベキスタン政府の社会事業活動再訓練修了証書

Opa事務所の間取り



縫製作業室

活動概要 ①

障がい者自立のためのセミナーの開催、職業訓練、職業斡旋を行っている。運営や活動内容に関しては、年2回運営委員会開催するとともに、障がい者の実情を把握して課題を抽出する会議を5年ごとに開催し、社会や労働関係の政策改善を政府に建議するための予算や支援方法・活動内容を検討している。

なお、これらの活動に際しては、「ウズベキスタン共和国障がい者社会保護法(1991年施行)」および「ウズベキスタン共和国公益団体法(1991年施行)」に準拠している。

支援活動の内容

● セミナー

障がい者に関する法律や、障がい者の社会的理解、男女同権に関するセミナーの実施。
“Pravo”(法令電子データベース)を活用した障がい者関係法令の相談受け。



● 職業訓練

リハビリ、看護、裁縫等の技術指導、リーダーシップトレーニングなど。

指導員はプログラムによって、協力関係にある医療団体、社会福祉センター、障がい者のために法律サポートセンターなどから派遣される。またこれらの機関と合同で訓練を行う場合もある。

● 障がい者の専門学校や職業訓練校等への入学協力



縫い物指導

活動概要 ②

支援活動の内容 一つづき

● リハビリテーション、投薬や入院、治療などへの経費援助

ウズベキスタンでは医療費は無料だが、薬や備品などは有料になるため、それらをOpaが資金援助している。その他、治療(受診)や入院手続き等のサポート、法に基づく障がい者の権利などの説明も行っている。

● メンバー医師による訪問診断



職業訓練に参加している障がい者の家族(訓練内容:リハビリ、適応・看護訓練)



職業訓練後の障がい者自宅での介護



メンバー医師による訪問診断

● 障がい者家庭への物的・資金的援助、クリスマスなどのプレゼント

● 正月やナウルーズ(春分の日の祭り)、国際児童保護デー、ウズベキスタン独立記念日におけるイベント開催

商業活動：製品販売

● 建築作業用手袋

建築作業用手袋はOpaの活動に協力する人々や技術を身につけた障がい者が製作し、民間建設会社や州の建設請負企業、セメント工場などに販売している。企業などに直接交渉して売り込んでいるが、生産数量が限られるため、一般のメーカーとの競合に苦しんでいる。

● 縫製品

お土産用の人形やテーブルクロス、カーテン等を、Opaの活動に協力する人々や技術を身につけた障がい者が製作し、セミナーや展示会会場で販売したり、観光客などに売っている。



— 小物縫製品 —

商業活動：レンタル業

● 催し物等へのテーブル・椅子等貸し出し

プラスチック製のテーブルや椅子、テーブルクロス、皿などの食器セット、プロジェクターとスクリーン、車椅子などを、事務所の周辺や近隣地域に貸し出している。

Stol, stul va «pakhtag'ul» idish tovoq
Прокати

Бизнинг прокат хизматлардан фойдаланиб сизга ногирон оддамларга ёрдам берасиз.

Телефонлар:
+998 93 132 41 98 Ташкент шаҳри
+998 90 132 42 04 Қўبўта қишлоғи

(右)NGO活動の
広報ちらし

MAJLISLARIKIMIZ
Uzbekiston Respublikasi,
Tashkent viloyati,
Kibray tumanida, Kibray
2/A Jilbosiya ko'chasi.

«ОПА-СИНГИЛЛАР»
KIBRAY TUMANI AG'IRITON
DEKLARATSIYASI

«ОПА-СИНГИЛЛАР» мажлиси
аъзолари хизматларида
мажлисларимиз,
мажлисларимизнинг аъзо аъзолари
ушбу хизматларни беришни
таъминлайди.

«ОПА-СИНГИЛЛАР» мажлиси
аъзолари хизматларида
мажлисларимиз,
мажлисларимизнинг аъзо аъзолари
ушбу хизматларни беришни
таъминлайди.

活動概要 ③

製品の配送方法

国内の協力団体等を通じて配送している。

年商

約1,700万スム。

政府への要請

ウズベキスタン国内には50の障がい者支援基金があるものの、障がい者支援を十分に支えるには不足しており、就業等の機会や医療などを受ける障がい者の権利に対してはまだ認識が不足している。障がい者支援は、支援団体独自に対応することが困難な社会問題であり、行政機関からの支援が不可欠である。このためOpaでは支援制度の改善などを政府、自治体に建議すると共に、セミナー・カウンセリング等を通じて障がい者支援の必要性を広く訴え、州政府から資金補助、障がい者への職場の提供、医療費の補助金等の資金増額を要請している。



日本（外資系企業）とのコラボレーションの提案

- 松葉杖、車椅子などの製造
- 障がい者がバスや市電に乗降するための昇降機の製造

■ 日本企業への希望

1. 事業を始めるための投資
2. 日本製の高品質のパーツや設備の提供

Opa側からは、工場等での労働力や建物を提供し、政府手続きなどを行う用意がある。

編集後記

■ ウズベキスタンにおける障がい者支援NGOの現状

ウズベキスタン国内の障がい者支援NGOは、ほとんどが小物商品を薄利で販売し、現金収入を得ているのが現状で、活動基盤が脆弱である。活動資金をビジネスで得ているNGOはほとんど無く、大部分は企業の基金や政府、外国のドナーからの資金援助に頼っている。

■ Opaのビジネス・モデルと課題

ウズベキスタン国内のNGOには数々の厳しい制約がある。ビジネス用に法人格を切り替えれば規制は緩和されるが、補助金を受けられないなどの問題が生じる。そこで「CHAQQON GO' ZALLAR」関連団体を設立し、資金援助のみに頼らず、独自でビジネスによる収益を上げ、その資金で活動を維持しうる仕組みをつくらせている。ただしその収益も充分とは言えず、収益に繋がる新しい事業を常に模索している。

■ 障がい者就職先の斡旋

タシケント州の場合、障がい者を雇用する企業や団体に対し税控除などの優遇を与えている。企業側には税金負担軽減だけでなく、障がい者を雇用しているという企業イメージも上がるといったメリットもある。こうした点をセールスポイントとして企業と交渉し、就職斡旋先を探している。

■ 競合団体

“Uzbek society of disabled”など類似の支援団体はあるが、それらも寄付に頼っており、収益活動上の競合相手ではない。

■ 日本企業にとってのウズベキスタン進出のメリット・留意点

- タシケント州の場合、障がい者雇用に対する税控除等の優遇措置があり、中小企業型の事業が適している。
- 人件費が安い。
- 障がい者向け製品の市場が有望。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。